

【江蘇省淮安市飲料水改善計画】

被供与団体:江蘇省淮安市愛国衛生運動委員会

供与金額:44,832米ドル

契約署名日:平成3(1991)年11月14日

案件概要:

淮安市周辺の農村部では飲料水が汚染され、消化器系伝染病の発生率が他の地域に比べて極めて高かったことから、清安河沿いの15カ所の村落に100mの深水井戸を建設し、良質な飲料水を3.5万人(全市の約3%)の住民に供給する事業が計画された。最終的に事業規模が拡大し、草の根無償の供与額は総事業費の約15%となったが、地元には数カ所に日本の援助を記念とする「飲水思源」のプレートが設置されている。

本件実施により、同市では80%以上の農民が上水道を使用するようになり、今後、全人口に普及させたいとしている。なお、同市は周恩来総理の出身地として知られ、多くの観光客が訪問している。

<関連写真>



【江蘇省南京市聾啞学校校舎増設計画】

被供与団体：江蘇省南京市聾啞学校

供与額：50,000米ドル

契約署名日：平成6(1994)年2月24日

案件概要：

南京市聾啞学校は、1992年に中国の聾啞学校の中で初めて大学進学者向けの教育を行う高等普通科課程を新設したが、教室不足が生じたことから敷地内に12室分の校舎を新設することとなり、建設費の総額約66万元のうち約43.5万元を草の根無償で援助した。

2000年までの高等科の卒業生は90人で、うち86人が大学進学を果たした。特に、女生徒が半分を占めており、女性の社会進出にも大いに貢献している。また、同校は普通校との交流や課外活動など情操教育にも力を入れてきており、豊富な経験に基づく高い教育水準は全国的に知られるようになり、現在の在校生124名は全国14省、3直轄市の出身者である。

<関連写真>



【江蘇省南京市江浦県龍山村井戸掘り計画】

被供与団体：江蘇省江浦県龍山村人民政府

供与額：64,792米ドル

契約署名日：平成7(1995)年2月16日

案件概要：

龍山村は高地に位置するため、長年水不足に悩まされていたが、調査で貯水量が豊富な水脈が有ることが判明し、1994年から村政府が資金を投入して井戸掘り計画が進められていた。その後、途中で大干ばつに見舞われ、資金不足に陥り、当該計画は中断されていたが、草の根無償により支援し当該計画を完了させることとした。本件の実施により、1日約5,000トンの水が確保でき、飲料水と農業用水に利用され、付近の地域住民約10,000人が裨益している。

【江蘇省徐州市銅山聾啞学校リハビリ機器整備計画】

被供与団体：江蘇省徐州市銅山聾啞学校

供与額：83,174米ドル

契約署名日：平成9(1997)年3月15日

案件概要：

同校は、1976年に設立された聴覚障害児のための特殊学校であるが、言語訓練機器が整備されておらず、言語機能を回復する可能性のある生徒も体系的な訓練を受けることができなかった。

本計画は、言語訓練システム機器、聴力測定機器及び職業訓練のためのコンピューターの購入費用を供与するものである。本件実施後、供与した機材をより有効に活用するため、地元政府が150万元を拠出して科学医術棟を建設し、1998年6月に設置が完了した。その後の3年間に同校で学んだ87名のうち10名が普通学校への進学が可能になる程にリハビリの水準が著しく向上した他、周辺地域への出張サービスに力を入れ、特に3歳以下の聴力障害児に対する早期のリハビリを積極的に行い、既に600名以上の父母に対しても訓練方法について指導を行ってきた。2000年5月には、国内初の「中国特殊教育網<http://www.spe-edu.net>」を開設し、技術や経験の交流の幅を広げている。

<関連写真>



【江蘇省連雲港市東海縣南辰中心中學校校舍增設計画】

被供与团体: 江蘇省東海縣南辰中心小学校

供与額: 69,327米ドル

契約署名日: 平成9(1997)年3月15日

案件概要:

江蘇省最北部の連雲港市にある同校は、校舎不足のため生徒800名余りのうち200名以上が倒壊の危険性のある建物に間借りして授業を受けていた。生徒の増加も見込まれることから、隣接する場所に新校舎(3階建て、建築面積1,800㎡)を増設することになり、総経費100.5万元のうち地元政府では手当できない約57.5万元について草の根無償を申請した。

本計画の実施により、1998年現在、20クラス、計約1,000名の生徒が日々勉学に励んでいる。その後、学校関係者の努力や社会からの援助により設備が拡充され、1999年には県教育局から教育モデル校に指定された。当地域では指折りの優秀校として高い評価を受けている。

<関連写真>



【江蘇省連雲港市灌雲県沂北郷衛生院建設計画】

被供与団体：江蘇省灌雲県沂北衛生院

供与額：95,715米ドル

契約署名日：平成9(1997)年3月15日

案件概要：

沂北衛生院は、沂北郷及び周辺地域の住民計10万人が利用する村の診療所であるが、1966年に建設された老朽な平屋は極めて衛生状態が悪く、医療機器と呼べるものは旧式のレントゲンと顕微鏡のみであった。そこで、地元政府は外来病棟及び入院病棟を新たに建設し、レントゲン、胃カメラ、救急車等の医療機器を購入する計画を立て、総工費155万元のうち70万元を本件の草の根無償で支援した。

条件が著しく改善されたことにより、一日当たりの診察者数は60名から200名に増加し、隣接する市の大病院との連携も開始され、現在では地域の中核医療機関として機能している。

<関連写真>



【江蘇省宝応県実験幼稚園建設計画】

被供与団体：江蘇省教育委員会

供与額：81,089米ドル

契約署名日：平成10(1998)年3月16日

案件概要：

宝応県は江蘇省揚州市の最北部に位置し、農民の流入が続き人口が迅速に増加しているが、幼稚園の数は少なく、共働きの家庭に負担がかかっていた。

そこで、県は300人以上を収容できる幼稚園の建設計画を打ち出し、建設費用210万元のうち不足分の67万元を草の根無償資金協力で支援した。建設した幼稚園には、各種活動室、科学発見室、パソコン室等が完備されており、各教室も明るくて広く、関係者より歓迎されている。現在、9クラス合計300人の児童が在籍し、約30名の教員が付近の幼児教育任務を担っている。省、市の関係部門の評価を得て、1999年末には江蘇省初の「師範的実験幼稚園」に認定された。

<関連写真>





【江蘇省灌南縣大北・康渡兩村水道整備計画】

被供与団体：江蘇省灌南縣三口鄉人民政府

供与額：34,884米ドル

契約署名日：平成10(1998)年3月16日

案件概要：

江蘇省北部の灌南縣にある大北、康渡兩村及びその周辺の村には上水道がなく河川の水や簡易水道が使用されていた。しかし、アルカリ濃度が高く汚染も深刻なことから、結石と肝炎の発生率が極めて高いことが判明した。兩村は1992年に水深150mの井戸を掘り、給水設備を整備したが、財源不足から給水塔の建設には着手できずにいた。

本計画は、給水塔建設のための資材購入費用約29万元を供与するものである。本件の実施により、毎時200トンの給水能力を有する給水塔が整備され、これにより村民6,000人余りが上水道を使用することが可能となった。

<関連写真>



【江蘇省泰州市特殊学校言語訓練棟建設計画】

被供与団体：江蘇省泰州市特殊教育学校

供与額：79,271米ドル

契約署名日：平成10(1998)年10月11日

案件概要：

泰州市は、1996年に揚州市から分離した人口約500万人の地方都市である。当時、聾啞児童のための特殊教育を行う施設の建設が急務となり、市が訓練のための機材を購入して一般学校で使用を始めたが、より有効に

活用するための教育棟を建設する必要が出てきたため、その経費を草の根無償で供与することとなった。

完成した語学訓練棟(4階建て、1,800㎡)では、9年の義務教育対象児童約120名が授業を受けている。本件の援助決定を受けて県が資金を補填して宿舎を建設し、生徒は寄宿生活を送ることが可能となり、自立のための社会訓練を受けている。2000年の卒業生14名は、全員が地元の工場への就職を果たしており、今後は高等教育機関への進学を促進するために高等部の設立を目指している。また同校では、視覚障害児教育も開始し、障害の回復率を高めるために学齢前(3～6歳)の特殊教育にも取り組んでおり、地域の中核的な特殊教育機関になっている。

<関連写真>



【江蘇省南京市身体障害児童家庭医療センター建設計画】

被供与団体：江蘇省南京市民政局

供与額：63,557米ドル

契約署名日：平成11(1999)年2月4日

案件概要：

南京市に在住する身体障害児童のための福祉施設として1987年に「南京市身障児童リハビリセンター」が設立され、知名度が高まったため、市内のみならず全国各地から身障児童が訪れ、健康管理や治療、リハビリ訓練等を受けるに至っている。同センターでは身障児童を抱える家族の負担を軽減するため、センターを一部改造して「身障児童家庭医療センター」を設けてカウンセリングや専門教育、家庭間交流、地域社会との連携の場とすることになった。

本計画は、その建設費用や訓練機材、玩具等の購入費用の一部を支援するものである。同センターは、開所後1年間で80余りの家族がメンバーとなり、地域住民との交流会やピクニック等を主催し、その活動への参加人数は延べ2,000人を超えている。なるべく多くの身障児童が普通学校に入学できるよう、また将来の社会的自立を実現できるよう、家族の負担を軽減しながら一般社会との接点の拡大が図られている。また、月1回以上のペースで専門家による講演会を開催し、香港の慈善団体との経験交流を通じてリハビリ訓練のレベル向上にも力を入れている。

<関連写真>





【江蘇省塩城市濱海県親港郷橋梁建設計画】

被供与団体：江蘇省新港郷人民政府

供与額：53,560米ドル

契約署名日：平成11(1999)年2月4日

案件概要：

新港郷は、南京市の北約300kmに位置する黄海に面した人口約2.7万人の街である。同郷は、中央を流れるクリークによって街が大きく分断されていて、1975年に建設された2つの橋も老朽化が進んでいることに加えて幅が2.5mと狭いため、郷の発展にとって大きな制約となっていた。

同郷では、幅5m、全長50m、積載重量15トンの新しい橋の建設計画を建てて10万元を拠出したが、不足分の約45万元について、本件により支援を行った。現在、一日当たりの往来は延べ4,000人、車500両となり、5トン以上の車両が郷の南北を移動することが可能となり、20の村、計3万人が裨益している。

【江蘇省儀征市青山郷水道整備計画】

被供与団体：江蘇省儀征市人民政府

供与額：81,306ドル

契約署名日：平成11(1999)年11月4日

案件概要：

江蘇省儀征市の管轄下にある青山郷は、人口約1.2万人の村落である。一人当たりの年間収入が2,000元に達

しない省内でも最も貧しい地域で、肝炎の多発地域となっていた。度重なる調査の結果、その原因が長年に渡り貯水池の水を濾過することなく飲料水に用い続けてきたことにあることが判明したため、市では市内の大型企業グループ「儀征化繊集団」との間で低価格での飲料水の供給を受けることを決定した。そのための給水設備の整備には約260万円を必要とし、うち約67万円を本件により援助することとなった。1日当たりの可能給水量は1,000トンで、ほぼ全ての村民が裨益している。また、周辺の村落に比べてコストが1トン当たり0.3元安いいため、今後可能な限り周辺地域への供給を拡大したいとしている。

<関連写真>



【江蘇省無錫市レイオフ女性労働者再就職センター建設計画】

被供与団体：江蘇省無錫市婦女連合会

供与額：79,758米ドル

契約署名日：平成11(1999)年11月4日

案件概要:

江蘇省南部の無錫市では、国有企業改革と經濟構造の変化に伴い、1997年には5.8万人の一時解雇者が発生し、1998年末でもその数は2万人以上に上った。大部分が働き盛りではあるものの手に職を持たない女性であることから、無錫市婦女連合会ではこうした女性を対象に裁縫、理髮美容、料理、コンピューター、商店經營、家電修理等の訓練を行う再就職訓練センターを建設することとなった。これにより年間4,000人がここで実習を受けることが可能となる。総経費163万元を要する建設費のうち、本件により約65万元を供与した。

開設後3ヶ月間で約180人が訓練を受け、うち80%が再就職を果たしており、市婦女連合会も様々な形で就職機会を発掘して就職率の向上に寄与したいとしている。

<関連写真>



【江蘇省揚州市高郵兒童福利院施設改善計画】

被供与団体：江蘇省揚州市高郵兒童福利院

供与金額：85,060米ドル

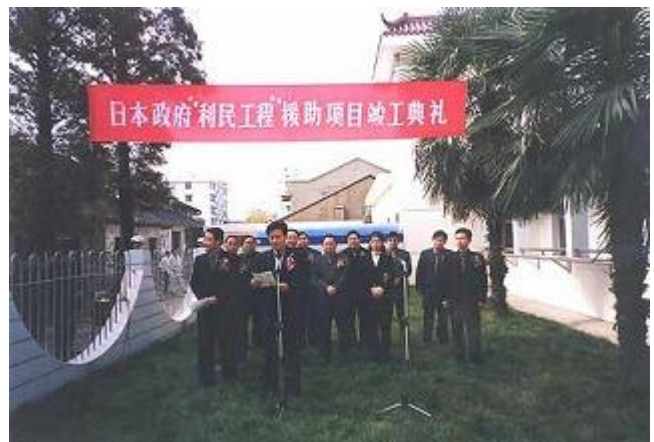
契約署名日：平成13(2001)年2月8日

案件概要：

1965年に開設された高郵兒童福利院は、揚州市最大の兒童福祉専門の施設として16歳以下の身体障害兒童のリハビリや遺棄された幼児（ほとんどが女児）の收容を行ってきた。收容人数が増加する傾向になる中で、建物の老朽化が進み一部では倒壊の恐れが生じたうえ、給湯設備が使用不可能になり暖房も停止したことから、ボイラー室の建て替えを決定し、その費用約130万元のうち約70万元について草の根無償で供与することになった。

ボイラー室には大型の洗濯機と乾燥機が備えられ、100名近い孤児や300名を越える障害者は、1年中衛生的な生活を送ることができるようになった。その後、市民政局等関係部門の支持を得て老人ホームの建設を中心とした第2期工事が行われた。

<関連写真>





【江蘇省南京市社会福利院身障者リハビリセンター建設計画】

被供与団体：江蘇省南京市社会福利院

供与額：90,799米ドル

契約署名日：平成13(2001)年2月8日

案件概要：

南京市社会福利院は、1952年に設立された。市内在住の老人と若年層を中心とする身体障害者を収容する同市で最大規模の総合社会福祉施設である。都市部の高齢化に伴い、老人のケアには一定の配慮がなされ、老人向けの居住環境はかなり改善されてきたが、そのしわ寄せを受ける形で身体障害者の生活環境が悪化してきた。

上記の状況を改善するため、同福利院では今般、宿舎とリハビリ施設が一体となった身体障害者リハビリセンターを敷地内にある知的障害者施設の隣に建設することを決定したが、市政府、同院で準備できる資金が限られていたため、不足部分を草の根無償資金にて援助することとなった。同センターは、面積756㎡で、宿舎、活動室、リハビリ室、食堂、共同浴場他、バリアフリーの設備を有する。センターの建設により、老人と障害者への十分なケアが可能となり、入居者は大変快適な生活を送れるようになっている。特に障害者については訓練を通して社会参加する人の増加が期待されており、当施設利用者の中には全国身障者卓球大会を目指して日夜練習に励んでいる卓球選手もいる。

<関連写真>



【江蘇省泰州市母子保健院児童眼科設立計画】

被供与団体: 江蘇省泰州市衛生局

供与額: 92,615ドル

契約署名日: 平成13(2001)年11月3日

案件概要:

泰州市は、人口約500万人の都市であり、同市の母子保健院は市衛生局が直接管理するベッド数120、職員300人余りの保健機関である。農村部では乳幼児期に市販の風邪薬などの不適切な使用が原因で視力に異常を来す例が多く、その発見が遅れ矯正の効果が十分に現れない、更には子供の視力障害が貧困家庭の家計を圧迫する等の悪循環も指摘されている。こうした現状を改善するため、泰州市では、同保健院の中に児童眼科の専科を設立することとなった。眼科専門医5名と児童保健専門員8名のグループは、学校への出張検診や異常が見つかった児童の治療などを行っているが、より早期に問題を発見し、かつより広い地域をカバーしていくために、携帯可能な検査・治療機材の整備が喫緊の課題となった。そのために10数台の検査・治療機材を購入するために必要な経費150万元のうち、76.5万元を草の根無償で供与した。完成した後、同院の医療水準は著しく向上し、また児童眼科保健についての宣伝と教育を広く行うことで、幅広い社会的効果を収めている。

<関連写真>



【江蘇省淮安市徐溜中学校校舍建設計画】

被供与団体：江蘇省淮陰区徐溜中学校

供与金額：91,525米ドル

契約署名日：平成14(2002)年2月25日

案件概要：

淮安市は江蘇省中部の交通の要衝に位置する人口505万人の都市であり、周恩来総理の故郷でもある。徐溜中学校は1959年に開校したが、校舎の大部分が開校当時に建築されたもので、著しく老化が進んでいた。2000年末、学区の調整が行なわれ当校に通う生徒数が倍増した。そこで新たに4階建て、建築面積2,600㎡の新校舎を建設することになり、総工費約150万元のうち約半分の76万元を草の根無償によって供与した。2002年末の完工式で、生徒代表は「私達は日本の友人や関係者の皆様の期待に添えるようこの素晴らしい環境で一生涯

命勉強し、自分達の行動で中日両国の友好のために貢献したい。」と述べた。現在、真っ白な校舎には、「中日友好楼」の文字が刻まれている他、校舎内には「日本政府草の根無償資金協力、91,525米ドルの援助を受けて完成」と書かれたプレートが設置されている。

<関連写真>



【江蘇省塩城市身体障害児童リハビリセンター整備計画】

被供与団体：江蘇省塩城市身体障害児童リハビリセンター

供与額：89,975米ドル

契約署名日：平成14(2002)年2月25日

案件概要:

塩城市は人口約795万人の江蘇省中部の都市で、14歳以下の身体障害児童は約4万人、そのうち就学前の児童は1万3千人余となっている。塩城市身体障害児童リハビリセンターは、1991年に設立した同市の身体障害者連合会が主管する児童を対象とした福祉施設である。リハビリの主な内容は聴覚障害児に対する検査と言語訓練、知的障害児に対する機能回復であるが、より広い地域の障害児を把握し、その家族から出される様々な要望に応えるため、新たな試みとしてコミュニティーの協力を得てネットワーク作りを行うこととなった。

本計画は、医療機材(聴力計、補聴器等)、視覚教材を活用するためのプロジェクター室、ネットワーク作りのためのコンピューター関連機器及び障害児用の車の購入費用の74万元を供与したものである。

<関連写真>



【江蘇省連雲港市母子保健院医療機材整備計画】

被供与団体: 江蘇省連雲港市母子保健院

供与額: 81,113米ドル

契約署名日: 平成14(2002)年12月20日

案件概要:

連雲港市は、江蘇省北部、山東省との境の沿海部に位置する人口440万人を擁する地方都市である。

旧市第三人民医院である同保健院は、職員数320人、ベッド数200床を有し、同市の母子保健サービスを一手に担う専門の医療機関として1986年に設立された。同病院では超音波診断装置等、基本的な診療に必要な器材は揃っているが、年間の婦人・乳幼児検診は延べ1万人余り、外来検診は約7.2万人、入院患者は約4,100人、分娩患者数は約1,400人と患者数が多い。本件は、使用期限が迫った小型レントゲン機器(200ミリアンペア)買い換えのための経費の一部を供与するものである。

当案件は、連雲港日本人会が連雲港市の医療分野の発展を願い、中国側関係者と協議を重ね、草の根援助

案件として推薦を行なったという経緯がある。今回、同保健院は日本政府の援助及び連運港市衛生局の拠出金を得て500ミリアンペアの大型レントゲン機材を購入することができた。

案件実施後に行なった2002年の統計によると、年間患者約10万人のうち約8%～10%が供与機材を使用している。患者増加率は現在でも年平均6%と高い値を記録しており、当プロジェクトは全市300万人を対象とする母子保健のニーズに適確に応えたものといえる。

<関連写真>



【江蘇省新沂市草橋鎮堰頭中心小学校教学棟建設計画】

被供与団体：江蘇省新沂市堰頭中心小学校

供与額：88,135米ドル

契約署名日：平成16(2004)年12月2日

案件概要：

堰頭小学校がある草橋県は、新沂市の西約32kmに位置し、人口約6万3千人の江蘇省で最も貧しい地域の一つである。

本計画は、劣悪な環境にある付近の小学校4校(いずれも1970年代から1980年代に、農民がレンガを積み上げて作ったもの)を一つに統合し、その教学棟を建設するものである。4校は、構造上、耐久性に欠ける上、過去に発生した台風などの影響により、校舎が変形し、至る所で雨漏りが生じ、使用されていた建物の1,680㎡(4校の総面積は、4,540㎡)が危険家屋に指定されていた。そこで比較的状态の良好であった1校の校舎を活かし、LL教室、パソコン教室などを備えた新校舎(3階建て、建築面積3,410㎡)を建設した。

本件の実施により、当地における教育環境の改善が図られたことで毎年の進学者が増加し、1,200人の生徒、教師、関係者に裨益し、間接的には1,3万人の周辺住民に裨益している。

<関連写真>



旧校舎



旧教室



新校舎



竣工式の様子



草の根無償資金協力の記念プレート

【江蘇省揚州市天海職業技術学校貧困支援計画】

被供与団体：江蘇省揚州市天海職業技術学校

供与額：88,759米ドル

契約署名日：平成19(2007)年3月7日

案件概要：

揚州市天海職業技術学校は、貧困支援を主な目的とし、貧困農村の中学校の卒業生（孤児、父兄が障害者、単親、及び家族全員農民の生徒など）を主な対象として専門的な職業技術教育を行っている。在籍している生徒数は1,200名で、裁縫、機械加工、電子、ホテルサービスの4学科が設置されている。民営のため政府からの資金援助は一切なく、貧困生徒の比率が高いため、資金面では常に不足している状態にあった。また、経済の発展が進んでいないことから、今後も貧困学生は増加していくと予想されており、学習器材や施設も十分でなく、当地の貧困支援ニーズに対応できない状況にあった。

本計画は、旋盤18台の購入資金を供与し、学習環境を改善するものである。本件の実施により、学生は教本で知識取得をすると同時に実践訓練を行えるようになり、設備の操作フローを熟知した人材の育成が可能となった。

<関連写真>



支援前に授業で使っていた中古の汎用旋盤



草の根で供与した汎用旋盤



草の根援助の記念プレート

【江蘇省連雲港市第一人民病院東方病院医療器材整備計画】

被供与団体:江蘇省連雲港市第一人民病院東方病院

供与額:85,413米ドル

契約署名日:平成19(2007)年11月28日

案件概要:

連雲港市は沿海地域であるため、食事による塩分の摂取量が多く、心臓病に罹る比率が高いが、連雲港市第一人民病院投票病院では、資金不足のため器材配備が困難となっており、古いモノクロ超音波診断機に頼らざるを得ず、検知レベルは低い水準にとどまっていた。

本計画では、供与資金によりカラー超音波診断機を配備することで、毎日100人以上の患者を正確に検査・診断出来るようになり、東部新城区の完成後は、一日当たり600人の患者に裨益すると見込まれる。

<関連写真>



署名式の様子



支援したカラー超音波診断機

【江蘇省聾啞兒童リハビリ器材供与計画】

被供与団体：江蘇省慈善總會

供与額：74,567米ドル

契約署名日：平成20(2008)年2月27日

案件概要：

江蘇省聾啞兒童リハビリセンターは省政府によって設立されたもので、省全体の聾啞兒童のリハビリや訓練、聴力検査を行っている施設である。

本計画は、省内の6歳までの聾啞兒童を対象にリハビリトレーニングを行うために必要な設備(補聴器検査システム、聴力検査器材、聴力診断器材、高頻度聴力計)を整備するものである。

本件の実施により、年間約800名の貧困家庭の聾啞兒童たちのリハビリが可能となるとともに、省全体の約2万人に及ぶ聾啞兒童及びその家族にも裨益する。

<関連写真>



引渡し式



支援した高頻度聴力計



補聴器検査システム



ODAプレート

【江蘇省新沂市馬陵山中心衛生院総合棟建設計画】

被供与団体：江蘇省新沂市人民政府

供与額：85,819米ドル

契約署名日：平成21(2009)年3月24日

案件概要：

新沂市は、江蘇省北部と山東省南部との境に位置する。主要資源は黄砂であるが、省級貧困県に指定され、同市の経済は立ち遅れていて医療環境も整っていない。

馬陵山中心衛生院は、1979年に創立された一級甲等病院であるが、現在臨時で診察や予防接種等で使用している病棟の老朽化が進み、危険家屋レベルとなっている。昨今、住民や政府当局の求める医療水準は高まりつつあるが、同院では診察室や病室が不足し、また、建物の構造が診察に適していないことから、十分応えられない状況にあった。

本計画は、外来部・救急部・入院部・予防接種室・健康教育室・トレーニング室・薬剤室等を備えた総合棟を建設し、馬陵山鎮及び周辺の鎮の住民合計約15万5千人の医療環境の改善を図るものである。

<関連写真>

(支援前)



代替使用している病棟1
(総合棟建設地確保のため、取り壊し予定)



代替使用している病棟2
(総合棟建設地確保のため、取り壊し予定)



代替使用している病棟3
(取り壊し予定)

(支援後)



馬陵山中心衛生院の全景

(向かって左側が草の根無償で援助した予防棟。
向かって右側は総合棟。)



ODAプレート(予防棟の入り口横に設置)



救急室(予防棟1階)

【江蘇省無錫市惠山区鐵路橋村高度處理型合併淨化槽設置計画】

被供与団体: 江蘇省無錫市環境保護局

供与額: 95,698米ドル

契約署名日: 平成21(2009)年10月28日

案件概要:

近年、無錫市周辺地域の急速な都市化、工業化に伴い、家庭からの生活排水や農村部の家畜排水、工業排水が未処理のまま河川に流入することにより、近隣河川の富栄養化及び汚濁化が深刻となっている。農村における生活排水については、既に一部の村に簡便な污水处理施設を設けているものの、当該施設では排水中のリンや窒素を除去しきれず排水処理基準を満たしておらず、太湖におけるアオコ発生の原因の一つともなっている。

本計画は、排水処理基準を満たす最適な生活排水処理システムを構築するため、日本製の高度処理型合併

浄化槽（処理対象約50人以内/槽）を導入するというもの。本件の実施により、河川の水質が改善され、生活環境の向上が図られる。また、日中両国の協力による環境保護に適応した新農村建設のモデルケースとなり、村全体だけでなく周辺の村にも浄化槽が敷衍されることが期待できる。

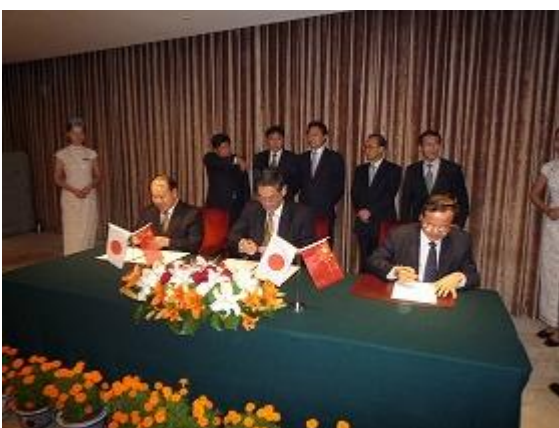
<関連写真>



汚染現状



村内の汚水処理用酸化槽
(リン・窒素を処理しきれない)



署名式の様子

【江蘇省宜興市丁蜀鎮浦南村高度処理型合併浄化槽設置計画】

被供与団体：江蘇省宜興市環境保護局

供与額：95,685米ドル

契約署名日：平成21(2009)年10月28日

案件概要：

近年、無錫市周辺地域の急速な都市化、工業化に伴い、家庭からの生活排水や農村部の家畜排水、工業排

水が未処理のまま河川に流入することにより、近隣河川の富栄養化及び汚濁化が深刻となっている。農村における生活排水については、既に一部の村に簡便な污水处理施設を設けているものの、当該施設では排水中のリンや窒素を除去しきれず排水処理基準を満たしておらず、太湖におけるアオコ発生の原因の一つともなっている。

本計画は、排水処理基準を満たす最適な生活排水処理システムを構築するため、日本製の高度処理型合併浄化槽（処理対象約50人以内/槽）を導入するというもの。本件の実施により、河川の水質が改善され、生活環境の向上が図られる。また、日中両国の協力による環境保護に適応した新農村建設のモデルケースとなり、村全体だけでなく周辺の村にも浄化槽が敷衍されることが期待できる。

【江蘇省南通市南通特殊教育センター聾啞児童リハビリ器材整備計画】

被供与団体：江蘇省南通市崇川区人民政府教育体育局

供与額：98,564米ドル

契約署名日：平成23(2011)年3月17日

案件概要：

南通特殊教育センターは、清代末期から中華民国初期の著名な政治家・実業家・教育家である張謇が、日本の島津盲啞院を視察後に設立して以来、80年余りの歴史を持ち南通市市街地に唯一ある視覚障害、聴覚障害、知的障害児童向けの特殊教育学校である。

同校においては、校舎拡大による運営経費が増加しているため、聾啞児童に必要な言語・聴覚リハビリ器材が未整備で、効果的なりハビリが実施できていない状況にある。

本件は、聾啞児童に対する適切な聴覚リハビリと発音矯正が行える教育環境を整備し、社会生活進出を支援するため、言語訓練システム一式とデジタルホワイトボードを整備するものである。

<関連写真>

(支援前)



聾啞幼児が授業中



署名式前に聾啞生徒と記念写真を撮る

(支援後)



言語リハビリ機器



デジタルホワイトボード

【江蘇省無錫市江陰市連携公衆衛生計画】

被供与団体: 江蘇省無錫市江陰市環境保護局

供与額: 110,086米ドル

契約署名日: 平成24(2012)年3月13日

案件概要:

本プロジェクトで改善申請をしている紅豆樹下、馬家堂、旺家堂の3つの村落は合計91戸、人口305人、サイト地には現時点では污水収集管等の設備を敷設しておらず、生活污水はすべて未処理のまま付近の河川へ流入している。また密接した各河川は相互に通じており最終的に紅豆浜川から張家港運河へ流入する。張家港運河はそのために汚染されており、村落内の河流汚染は更に深刻な状態にある。本件は、住民305人の生活排水を浄化処理して国が定める排水基準を満たし、生活排水による下流域の汚染や居住地付近の土壌汚染を防ぐため、3つの村落にて污水処理システムを建設する計画であり、肥溜、マンホール、雨水進水口、2,076mの污水収集管を整備し、設計日処理量100トンの污水処理設備を設置するものである。

<関連写真>

(支援前)



処理施設設置場所(設置前)
(画面中央の畑を潰して設置)



汚水が排出されている川



汚水処理施設設置後(地下に設置)

(支援後)



処理施設



ODAプレート



マンホール

【江蘇省連雲港市贛榆県金山鎮公衆衛生計画】

被供与団体：江蘇省連雲港市贛榆県人民政府

供与額：68,842米ドル

契約署名日：平成24(2012)年3月22日

案件概要：

金山鎮徐福村は農業と林業を主産業とし、農民の一人当たりの年間純収入は5,540元しかなく、鎮の平均レベルを下回っており、上級政府から補填を受けている状況である。

同村は環境保護設備が立ち遅れており、環境に対する村民の環境意識も低い。

また、現在は集落に点在するごみ捨て場に捨てられたごみを特段の処理をすることなく処分場に運んでいる状態のため、特に処分場周辺では各種ゴミが散乱し、環境汚染が深刻で村民の健康を脅かしている。

本計画は、徐福村北部のごみ中継施設(圧縮・積替施設)の圧縮作業場で使用される「圧縮機1台」及び「密閉式ごみ運搬車輛1台」を整備し、また「コンクリート作業台」、「管理室」、圧縮機検査時に使用する「ごみ置き場」を建設し、徐福村の住民2,630人の生活環境の改善を図るものである。

住民が生活環境の変化を実感することによって、生活環境に対する保護意識を高めるという効果もあった。

<関連写真>



現有の村内ごみ箱



他村に設置されている同型の圧縮機



ごみ圧縮・積み替えを行うごみ中継施設
(平成 28 年 5 月撮影)

【江蘇省南京市六合区竹鎮鎮大泉村梅營組生活污水处理計画】

被供与団体:南京市六合区環境保護局

供与額:103,323米ドル

契約署名日:平成26(2014)年3月26日

案件概要:

大泉村は、竹鎮鎮の中部に位置し、人口 9,080 人、面積 18.6km²、35 村民集落で構成され、2011 年の平均年収は 1.5 万元である。梅營組に設置された浄化槽が機能不全を起こしており、村民の生活に大きな影響を与えているため、特定非営利活動法人中日文化経済交流協会へ協力を求め、原因の分析及び対策の提案が進められた。調査の結果、各家に設置された化糞池(肥溜め)が詰まり及び水漏れを起こし、生活污水が浄化槽に運ばれ処理される前に流出していることが主要因であると判明した。

本計画は上記問題を解決するため、10件の農家に日本製の簡易型污水高度嫌気処理装置及び浄化槽に農家用簡易型畜糞堆肥化装置を設置し、環境改善のモデル事業を行うもの。機材の購入、搬送、設置工事は日本側が行い、事業の実施は紀律検査委員会が全工程を管理監督する。実施後1年間は日本側に污水处理施設のメンテナンスを委託し、その後専門スタッフに設備メンテナンスの教育を行い、長期的良好に運用する予定である。

(裨益効果)

支援後はメンテナンスをしながら稼働を続けており、生活污水の処理に役立っているほか、住民の環境意識の向上にも寄与した。

<関連写真>

(支援前)



貯水池



化糞池

(支援後)



処理された汚水の排水口
(2018年7月6日撮影)



農村トイレに活用される汚水処理装置
(2018年7月6日撮影)

【江蘇省無錫市恵山区前洲街道鉄路橋村農業高付加価値化計画】

被供与団体:無錫市恵山区人民政府

供与額:84,639米ドル

契約署名日:平成27(2015)年3月27日

案件概要:

無錫市恵山区鉄路橋村では、これまでの日本ODA事業により、近隣の湖である太湖に流れ込む生活排水の処理モデルを確立するとともに、太湖の富栄養化により発生したアオコ(藻)等の有機廃棄物の有機肥料への転換を実施した。

今回のプロジェクトでは、同村の経済力を向上させ、都市部との経済格差を是正することを目的として、農業6次産業化に取り組むべく、これまでの我が国ODA事業の成果を踏まえ、アオコ等の有機廃棄物からできる有機肥料を活用しつつ、センサー等で環境制御された栽培舎を設置して、高品質な有機野菜を栽培・販売する

計画である。

なお、栽培した有機野菜については、有機野菜を使用した料理を提供するレストランも備えた総合農業施設に提供する計画であり、本草の根プロジェクトで確立した有機野菜栽培ノウハウについては、後年度、無錫市で最大規模を誇る大規模野菜農場へ展開する計画を立てている。

平成27年3月27日の署名式では、朱愛勳・無錫市人民政府副市長が「本プロジェクトは、日本政府が農村経済発展レベル、農民収入を高めるために実施する援助プロジェクトであり、我々は、本プロジェクトの実施を通じ、更に日中両国の理解と友情、日中友好関係の発展を増進することができると思っています。」と述べたほか、李秋峰・無錫市恵山区人民政府区長が「日本の友人による恵山区の農村建設、農業発展への熱心な支持に心より感謝申し上げます。厳格な利民工程の管理規定と日本政府の要求に基づき、真剣にプロジェクトの進展を把握し、建設を管理します。」と述べる等、日本政府の協力による本プロジェクトの実施に感謝の意が表され、また、プロジェクトの実施に対する意気込みが示された。

(裨益効果)

栽培舎完成後は、年間を通して野菜等が栽培されており、生産性の向上や高齢者の多い農家の負担の軽減に役立っている。

<関連写真>

(支援前)



栽培舎の設置予定地



「江蘇省無錫市恵山区鉄路橋村高度処理型合併浄化槽設置計画」(平成21年度草の根無償資金協力)で設置した高度処理型合併浄化槽



「汚水処理支援等による農民の生活環境改善事業」(平成22年度日本NGO民間連携無償資金協力)で設置したコンポスター(有機廃棄物を有機肥料へ転換する装置)

(支援後)



栽培舎外観

(2018年7月5日撮影)



栽培舎内部

(2018年7月5日撮影)

【江蘇省徐州市睢寧県高作中心衛生院精神病診療設備整備計画】

被供与団体: 睢寧県人民政府

供与額: 79,382米ドル

契約署名日: 平成28(2016)年3月25日

案件概要:

江蘇省徐州市睢寧県高作中心衛生院において、精神病患者のニーズに応えるため、頭蓋磁気刺激機器(※)の整備を行う。

※磁気の刺激により脳を興奮させる、又は大脳皮質の活動を抑制する機器。精神分裂症、鬱病、強迫症、癲癇、パーキンソン病等の治療に使用する。

(背景等)

睢寧県高作中心衛生院は、2014年からサービス範囲・内容が更に拡大し、ベッド数100台という現有の病室では患者の需要(年間平均入院患者1,080名、通院患者毎月900名~1,000名)を満たすことができず、現在、新たな病室の整備を計画している。

新たな病室の整備計画に伴い、精神分裂症、鬱病、強迫症、癲癇、パーキンソン病等の症状に対応するため、診療設備の拡充も併せて計画しているが、資金が足りず、草の根プロジェクトに申請してきたものである。

睢寧県高作中心衛生院は、地域における総合病院となっており、とりわけ精神病については、規定のベッド数を上回るほどの需要があり、新たな病室の整備を計画している等、そのニーズが大きい。こうした現状において、患者ニーズを満たすため、精神病の診療設備の整備を草の根プロジェクトとして日本政府が支援することは、現地医療福祉環境への高い裨益効果が見込まれ、我が国経済協力重点方針である人間の安全保障の推進に合致する。

(裨益効果)

本件機器の導入により衛生院関係者が満足できる治療の効果が得られるほか、その成果は周辺地域の同レベルの病院が同種の機器の導入を検討する上での先行事例としても役立てられている。

<関連写真>

(支援前)



睢宁县高作中心衛生院の全景



精神病院内の問診室



精神病院内の入院病室



精神病の入院患者の様子(運動実施中)

(支援後)



頭蓋磁気刺激機器による治療の様子
(2018年9月13日撮影)



頭蓋磁気刺激機器
(2018年9月13日撮影)

【江蘇省無錫市惠山区前洲街道鐵路橋村環境学習モデル教室建設計画】

被供与団体：惠山区前洲街道鐵路橋村民委員会

供与額：35,325米ドル

契約署名日：平成30(2019)年3月26日

案件概要：

地域住民による生ゴミ分別の定着化を通じ、生ゴミの堆肥としての再利用を図り、農地に適さない土地の再生及び農業の高付加価値化を実現し、もって農民の生活水準の向上に資することを目的として、地域住民が体験型の環境学習に取り組むためのモデル教室を建設するものである。

(背景等)

鐵路橋村(面積 3.1 キロ平米、常住人口約 3760 人)は、現在、改めて農業の役割に着目し、その再生に取り組んでいる。鐵路橋村民委員会は、2010 年から、高度処理型合併浄化槽(生ゴミから分離した汚水を処理)及びコンポザー(生ゴミから堆肥を生成)を導入し、生ゴミを堆肥として再利用するための実証事業を実施した結果、生ゴミの再利用モデルを確立したものの、村民による生ゴミ分別が定着しておらず、分別回収率の向上が課題である。かかる事情により被供与団体は、村民による体験型の環境学習という形で、生ゴミ分別の定着に向けた意識改革に取り組もうとしている。他方、被供与団体の財源は限られており、同団体のみで環境学習を実施するために必要な教室を建設することは困難であることから、今回の申請に至った。

<関連写真>



教室外観



教室周辺



教室内部



裨益団体のマッチング措置